

第36回 戦国肥後国衆まつり



戦国肥後国衆一揆の様子

南蛮毛物語

和水町上和仁地区には「南蛮毛」という字名があり、400年以上も前に「南蛮娘」が住んでいたという伝承話がある。

「南蛮娘マリア」は、豊後の国キリシタン大名、大友宗麟により和仁人鬼親宗に出会い、和仁田中城での生活を送ったが、高温多湿な気候と生活習慣の違いから1年足らずで亡くなってしまった。



肥後国衆一揆

『田中城の戦い』

天正15年(1587年)豊臣秀吉の九州平定により肥後の領主となった佐々成政。佐々成政が行った検地などの強引な政策に抵抗して肥後各地の国衆たちが起こした一揆が「肥後国衆一揆」である。

これに激怒した秀吉が、九州支配の今後の見せしめとして、筑前・筑後の大名に命じて攻撃をかけ、肥後各地の国衆を滅ぼしていく中、和仁氏は辺春氏とともに、田中城に籠城して抗戦した。小早川秀包を総大将とする安国寺、立花、鍋島などの1万の大軍に対し、1千あまりの軍勢で最後まで激しく抵抗したが、約40日後、最後の一兵までも滅ぼされてしまった。

秀吉はこの一揆後、全国に『刀狩令』を發布したといわれている。

これが今なお日本歴史上大きく位置づけられている『田中城の戦い』である。

2月10日(日)和水町多目的広場で第36回戦国肥後国衆まつりが開催されました。今年も晴天に恵まれ、多くの来場者で賑わいました。

祭りのメインイベントである「武者行列と国衆一揆の再現」では、総勢58人の勇壮な鎧兜の武者たちが入場すると、会場は緊迫した空気に包まれました。和仁五人衆による寸劇、両軍大将による掛け合い、鉄砲隊の発砲で白兵戦が始まりました。戦国絵巻さながらの壮絶な戦いを再現する演技に、観客はかたずを飲んで見守っていました。また、南蛮毛物語では、琴や篠笛などの生音を入れた寸劇を行い、雰囲気ある物語になりました。

今回の特別出演には「熊本城おもてなし武将隊」を招待し、槍の演武や甲冑ダンスなどを披露して頂きました。

他にも、保育園児による演技や青年団による肥後にわか、子供修羅レースや大人先陣修羅レース、新規イベントの商工会青年部による戦国わらじ飛ばし大会などを行い、最後はお楽しみ抽選会と紅白餅投げで締めくくりました。



イベントの様子